

なきごえ



1978

10

大阪市
天王寺動物園協会

動物と私

河野 ヤスエ

私の見たパンダ

(本年6月中頃、日中友好協会の訪中団に参加したときのパンダ見聞記)



中国に来たからには是非パンダを見て帰りたいと、北京二日目の夕食時、中国旅行社のガイドに申し入ると、パンダは暑さをきらい、日中はたいいて小屋の中で昼寝をしているので明朝早く動物園に案内しましょうということになった。

日中の気温は33度位で特に今年は暑さがきびしいらしい。

朝早くホテルを出、8時前に動物園に着く。パンダ舎は門を入れて少しいった左側で高い樹木におおわれていた。一頭は小屋の前でゴロゴロ寝ころんだり、歩いたり思うようにこちらをむいてくれない。また一頭はスベリ台に似た高い台の上で青空を見上げて寝ころんでいる。幼な子の様な顔、ゆっくり動く動作、小屋はコンクリート造りで運動場は相当広く、青草が生えている。まわりに堀を巡らせ、腰の高さ位のへいで囲んであった。見物客はこのへいの処からパンダを見る様になっている。朝が早やかったが大勢の市民がもう見物に来ていた。やはり中国も方々の地区から見に来る人が多いと云う話であった。

天津にもパンダがいた。水上公園の一角に動物舎

なきごえ10月号もくじ

動物と私“私の見たパンダ”	2
ボリビアリスザルの誕生	3
動物園グラフ	4・5
幼稚園から動物園への要望	6
中国ハルビン動物園だより	7
ヨーロッパの動物園みてあるき ③	8・9・10
動物園ニュース	11

があり、姉妹都市、神戸市から送られたジラフが立派な建物に住み、その横に北京と同様、小屋と堀を巡らせた広場にパンダが4・5頭いた。

丁度リングを持っていたので差しだと、手のひらを上に向けて取りに来たのには驚いた。背を石垣にもたれさせ、両手足を前になげだして座り、ゆっくりリングをかじる。それは乳児が何かをもらって喜んで食べている姿にそっくり。横にいるパンダはそれを又ゆうゆうと見ているだけで自分も取りにいこうとはしない。他のパンダも草原で背を地につけ、青天井に手足をのばしたユーモラスな姿で寝ころんでいた。

済南では大明湖公園で、簡単な囲いの中に小熊が何頭もいたがそのまま行き過ぎた。うしろで大勢が写真を撮りはじめたので小熊は日本にも多くさんいると声をかけると『これはパンダ』と云われ、振りかえってよくみると先程の小熊だと思っていたのはパンダだった。

白い毛がうす汚れて、何頭もいるので小熊だとばかり思っていた。日本でのパンダ珍獣さわぎを聞いているので、これ程いるとは思わなかった。

また絵になっているパンダもあった。清朝末期の独裁者と云れた西太后(1835-1908)の夏の離宮、北京郊外にある頤和園(いわえん)に行った時のことです。昆明湖に接した700メートルにおよぶ長廊は極彩色の柱・欄間が続き、その欄間には一枚づつ風景画の扁額が掛っていた。全部で何枚あったか、数えられないがその中に一枚パンダを画いた絵があった。霧のたちこめた岩山の台地をバックに林の中からたわむれながら出てくる親仔のパンダが画かれていた。見たところ古い絵と思われ、百年程昔、清の皇帝に献上されたパンダを画材に宮廷画家に描かせたものではなからうか。

(大阪市天王寺動物園協会々員 主婦)

表紙の写真説明

「ニホンシカ」

4月頃からはえた袋角も、9月をすぎると見事な骨質の角にかわりました。シカのオスが一段と立派に見える季節の到来です。

(撮影：野口秀高)



“ボリビアリスザルの誕生”

8月2日に生まれたボリビアリスザル(メス、愛称トモ)の赤ちゃんは、その後すくすくと育っており、最近では母親の背中を離れて遊ぶ姿も見られるようになりました。

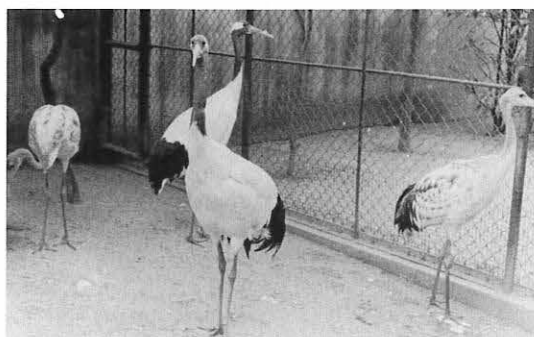
(撮影：宮下 実)

動物園グラフ

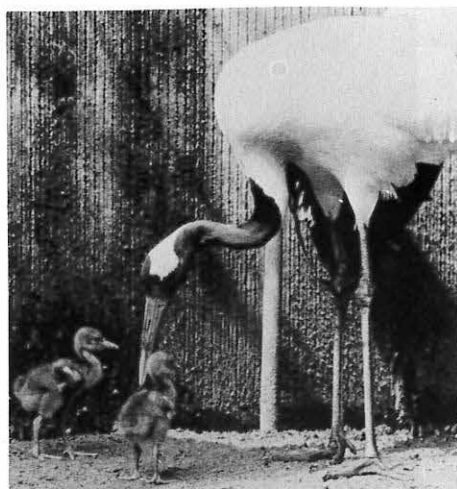
「こんなに大きくなりました！」Part I

今年生まれた動物のその後の成育ぶりを特集してみました。動物の赤ちゃんの成長のスピードはとても早く、今年の春に生まれたとはとても思えないほどです。

(撮影：大野尊信、宮下 実、農本武志)



4カ月たつと、体の大きさも両親並、茶色の羽色がまだヒナの幼なさを残しています。



6月15、16日 ふ化
3年連続の繁殖に母親も落ち着いたものです。

タンチョウ

ワシミミズク



6カ月もたつと、羽毛はすっかりはえかわって、体も親と同じ大きさです。(右の2羽がヒナ、左端が母親)

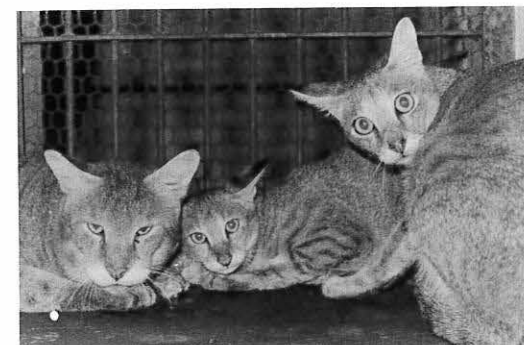


4月23日 ふ化
母親の体の下から白い羽毛に包まれた体をのぞかせています。



4月19日 3頭誕生
昨年、ダッカ動物園から贈られて来ましたが、1年目で早くも繁殖に成功しました。

ジャングルキャット



5カ月後、両親の間にはさまれて、ヤマネコらしい精悍さがでてきました。



5月16日 3頭誕生
33日目から人工哺育で育てました。

ベンガルトラ



4カ月後、トラ舎で一般公開しました。体重も15kgをこえ、運動場で走り回っています。

8・9月の動物園日記

- 8/17. トカラウマのヒヅメが伸び過ぎてきたので切ってやりました。
- 18. 9日に産まれたライオンの仔が、元気を失くしているのを引取って人工哺育を始めました。
- 19. トッケイが衰弱のため死亡しました。
- 22. ショウジョウトキのヒナがフ化し、人工育雛を始めました。
- 23. スプリングボックスのメスがやせてきたので

栄養剤を飲ませています。

- 24. クロサイのオスが軟便をしているので薬を飲ませました。
- 29. エミューが老令のうえ、心不全をおこして死亡しました。
- 30. アメリカトウブハコガメの寄贈がありました。
- 31. ベンガルヤマネコのオスが鼻汁を出しているのを薬を飲ませました。
- 9/1. 寄生虫予防のため、キジ類に薬を飲ませました。

- 9/3. ニジキジのオスが元気を失くしているのを薬を飲ませました。
- 4. 鼻汁を出していたベンガルヤマネコのオスはすっかり良くなりました。
- 6. シマハイエナが老令のうえ、出血性大腸炎をおこして死亡しました。ヤギのメスが胃の中にビニール袋をためていたので手術をし、取り出しました。
- 8. キンケイの寄贈がありました。
- 10. タヌキが4頭寄贈されました。

- 11. チャイロカケイのメスがビッコをひいているので治療しました。
- 13. ニジキジのオスが左眼を腫らしているのを治療をはじめました。
- 15. シロカケイが衰弱しているのを栄養剤を注射しました。
- 16. クロザルのメスが元気を失くしているのを入院させて治療をはじめました。
- 18. ジャングルキャットが回虫をわかしているのを薬を飲ませました。

ヨーロッパの動物園みてあるき ③

§アムステルダム → 西ベルリン

アムステルダム動物園を5時においとましてホテルに戻り、一休みした後、歩いて市内をぶらぶらと見物しました。名物の生ニシンを食べたり、みやげ物屋をのぞいたり……ヨーロッパに来てやっと動物園以外の所を見物したわけですが、動物園を見学する時のような感激と興奮が全くなく、帰途マーケットで夕食用の食料を買いこんで早々にホテルに戻りました。翌5月27日、6時に起き、バスを乗りついでスキポール空港へ向かいました。ここから9時10分発の飛行機でハンブルグ経由で西ベルリンへ。ドイツに着いてまず感じたことはベルギーやオランダほど英語が通じないこと。それでもバスに乗ってやっと市の中心部の動物園前に着くことができました。

§西ベルリン動物園

この動物園は西ベルリン市の中心に位置し、その飼育する動物の種類は哺乳類、鳥類、ハ虫類だけでも1200種以上あり、その収容種類の豊富さでは世界でも1・2を競う大動物園です。面積は天王寺の3倍ほどなのにどのようにしてこの膨大な種類を収容しているのか興味津々で動物園の門に向かいました。門の改札で案内を請うと、ほどなく獣医のJarofke氏が迎えにあらわれ、まずは彼の研究室へと向かいました。彼の紹介で動物園近くのホテルも予約していただきました。

開園134年という古い歴史のとおり園内にそびえる大きな樹木がまず目に映りました。ここは珍しい稀少動物も数多く収容していますが、ハトやニワトリの変った品種までそろえており、一つ一つ丹念に見ているととても時間がなきそうなので、とにかく健脚？にものをいわせて歩き回ることにしました。シカ類のコレクションはすばらしく、世界に42種いるシカ類の内、17種をここで収容しており、うっそうと茂る森の中にミュールジカ、ホエジカ、パンパスジカなどの放飼場が散在していました。カモシカ類もボンゴヤトビ、セーブルアンテロプ、ウォーターバック、ポンテボックなどの珍しいカモシカ類がよく繁殖しているようで、その各々の動物舎も目をひく造りでした。

海獣類もアシカ、ゾウアザラシ、オタリアなど、それぞれ広い面積のプールがあり、特に



アメリカバイソンのユニークな動物舎

ゾウアザラシは繁殖にも成功しており入園者の人気の的でした。

鳥類館は内部は明るく美しく、展示の仕方も工夫がこらされており、その収容鳥類の豊富さでも世界

一を誇るだけあって、約1時間もかけて見学しましたが、次々に目にする珍鳥に感激し、展示のうまさにも感嘆し、さすがの私も途中で館内のベンチに腰を掛けて茫然自失状態になったほどです。野毛山動物園のアニキチ（アニマルキチガイ）と称されるほどの大坂氏ですら、この動物園ではあまりの動物ラッシュにへたりこんだとの由そんなことは私の場合にはあり得ないとたかをくくっていた



ゾウアザラシは人気の的

のに、どこに目をやっても珍しい動物、動物……。とうとう鳥類館でダウンしてしまった次第です。この後、気をとりなおして？この見どころの一つ、クマの放飼場に向かいました。ここは北極グマ、ヒグマ、メガネグマ、ヒマラヤグマなどがとてつもなく広大な放飼場で飼育されており、放飼場の凝岩の



北極グマの放飼場

すばらしさと共に思わず見とれてしまいました。もうこれ以上動物を見ても、頭の中には少しも入らないようなので6時前、動物園からホテルに向かいました。

（翌日は東ベルリン動物園を訪問、翌々日、再度西ベルリン動物園へ）

翌々日（5月29日）、ホテルの近くのパンナムの営業所でフランクフルト行航空便を予約した後、西ベルリン動物園を再度訪問しました。

Jarofke氏の研究室に行く途中、ゾウ舎を見学しましたが、この中に世界でも10数頭しか飼育されていないマルミゾウがいるはずと、まずアフリカゾウの方を目をこらして

見てもおらず、まさかと思いつきながらインドゾウの方を見ると、5・6頭のインドゾウにまじって一回り体型が小さく、耳が大きく形の丸いゾウが1頭いました。これがお目あてのマルミゾウで、アフリカゾウの一亜種と



珍しいマルミゾウ

されていますが、体のいろいろな特徴からアフリカゾウとはかなり異なる点もあり、独立種とみなす人もあります。丁度朝食の時間だったようで、葉のたくさんついた木の枝を食べていました。

その後、一昨日見そこなったカモシカ類や、類人猿舎、サル舎を見学しましたが、サル舎は天井が高く、運動場も寝室も大変きれいで、ここではテングザルやクロシロコロブスなどの稀少なサル類も繁殖していました。

研究室でJarofke氏とお会いし、そこでもう1人の獣医、Götenboth氏を紹介してもらい、彼の案内でまず飼料倉庫と調理場を見学しましたが、2階建のしゃれた建物の飼料倉庫は内部も清潔で整理されていました。次に動物病院に行き、薬品、医療器具などを見学し、動物の麻酔に関する論文なども頂きました。病院の隣には新しい検疫室を建築中で、大動物用、小動物用、長期入院用などいろいろ工夫がされていました。次に



立派な飼料倉庫

猛獣舎へ行き、ライオン、トラ、ヒョウなどの各セクションごとに1基ずつ設けられている電動式のスクイジングケージを見せてもらいましたが、このような設備が随所があれば猛獣の治療も楽にできそうです。ここでGötenboth氏に案内の礼を述べて別れ、猛獣舎の地下にある夜行性動物館を見学し、一応この動物園全般の見学をすることができました。それにしてもあまりの動物の豊富さに頭が混乱しそうで、3日位かけてゆっくり見学できたらと残念で、将来機会があればもう一度訪れたいと思いました。

§西ベルリン → 東ベルリン

5月28日は東ベルリン動物園を訪問するため、西ベルリンのホテルを朝早く出発し、地図を片手に一路S-バーンの駅に向かいました。ここベルリンにはU-バーンとS-バーンの2種類の電車がおり、U-バーンは地下鉄、S-バーンは地上を走る電車のようなのです。東ベルリンに行くにはこのS-バーンに乗り、ベルリンの壁を通過して、東ベルリン側の駅で下車して検問所を通るわけです。さてこの検問所では言葉の不自由もあって非常に困りました。まずパスポートを渡すと整理券をくれましたが、何のためかさっぱり分らず、人の後について行くと大勢の人が窓口の前で待っていました。側の人に英語でたずねてもドイツ語で答えてくれるため全く要領を得ず困っていると、1人の婦人が流暢な英語で教えてくれました。整理券の番号を呼ばれたら窓口へ行

って5マルク払ってパスポートを返してもらおうとのこと、なるほど整理券を見ると5桁の数字がかいてあり、時々アナウンスがあって番号を呼んでいるらしいのですが、8年前に学んだドイツ語の能力ではとても5桁の数字を聞きとる力もなく、いつ自分の順番がくるのか分らず、又々途方にくれてしまいました。先ほどの婦人は人ごみにまぎれてしまい、やむなく隣りの中年の夫婦に身ぶり手ぶりで、この番号がきたら教えてもらうように頼み、やっと一安心。20分ほどでやっと順番がきてパスポートをもらい、次の所に行くのと又、列をつくっており、多少うんざり。ここでは西ドイツマルクから東ドイツマルクに6.5マルクの両替をするらしいのですが、ドイツ語の説明が少なく、外国人無視？もいところと1人憤慨しました。両替をすませ、前にいた学生に英語でたずねると、やっと英語で答が返ってきたので、これ幸いと東ベルリン動物園までの道順を教えてくださいました。それにしてもロンドンやアムステルダムでよく見かけた日本人観光客はどこへ行ったのでしょうか。ベルリンに来て日本人らしい人は見かけず、異郷にただ1人のような心細い感じです。東ベルリンの市内を20分ほど歩き、U-バーンの駅へ向かいました。新しい高層ビルも建っている反面、古い建物や戦災の跡そのままのような所もあり、軍服姿の人が多く目につきました。途中3回ほど道をたずねましたが答は全てドイツ語、後で知ったのですが東ドイツは第二言語はロシア語とのこと、将来ドイツ再訪の折まではドイツ語を少しでも勉強せねばと痛感しました。

§東ベルリン動物園

この動物園には私の友人（といっても一度も会ったことがないのですが）、Seidel 獣医がいるので、門で彼への面会を頼みましたが英語が例によって全く通じず、英語とドイツ語のチンプンカンプンなやり取りの後、どうにか研究所の場所が分りました。この動物園は1958年創立と比較的新しいのですが、うっそうと茂る森林の中に動物園がある感じで、門を入ったところにはヨーロッパバイソンとヒトコブラクダのとてつもなく広い放飼場が左右にありました。とにかく森の中にある小道を歩いていると動物が出てくるという感じです。研究所に着いてほどなく、Seidel 獣医があらわれ、初対面のあいさつをしました。手紙で獣医学知識の交換をしているため、旧友にでも会ったような感じでした。

この動物園は面積が130haと天王寺の13倍もあり、歩いて見学すると3日もかかるそうです。園内見学の前にまずは腹ごしらえと、レストランで昼食をがちそうになりました。ロシアスープとダマシカのステーキを食べましたが、彼はこれは鹿ではなく老豚だと言っていました……。ビールとコニャックを少々飲みすぎて、ほろ酔い気分になりましたが、不思議なもので動物の見学を始めると全く覚めてしまい

ました。彼のフィアットで園内の観覧路を進むわけですが、日曜のため入園者が多く、その中を車で行くのは多少申し訳ない思いがしました。この動物園は元はドイツの皇帝の庭園だったそうで、それでこんなに大きな樹木があり、あちこちに動物の像が建っているわけです。飼育動物は哺乳類、鳥類だけでも600種類と多く収容していますが飼育係員は36人と非常に少なく、内7割は女性キーパーとのことです。又、東ドイツではハ虫類に興味を持つ人が少ないようで、

この動物園もハ虫類の展示にはあまり熱心ではありませんでした。予算が少なく当園は貧乏だとSeidel氏が言うように、有蹄獣の柵は全て木柵で、インドゾウやクロサイの動物舎にしてもお世辞にもきれいとは言いがたく、暗く湿っぽい感じで、写真を撮ろうとすると、こういう汚い場所は撮らないでくれとめられました。ここは有蹄類は数多く珍しいものを集めており、ジャコウウシ、ボンテボック、ターキン、サイガ、アダックス、シロイワヤギ、オカビ、ソマリノロバ、ウッドバイソンなど夢中で写真を撮りまくりました。特にオカビの所では放飼場の中に入れさせてもらい、

オカビの頭をなでさせてもらいました。全くピロードの肌ざわりとはこういうのをいうのでしょうか。この後、ここでの最も近代的な動物舎、アルフレッド・ブレイム館を見学しました。これはドイツの有名な生物学者の名にちなんで付けられたもので、大きな建物の中は熱帯鳥類館と猛獣館をあわせたようなもので、中央をガラス張り



換毛中のシロイワヤギ

この後、ここでの最も近代的な動物舎、アルフレッド・ブレイム館を見学しました。これはドイツの有名な生物学者の名にちなんで付けられたもので、大きな建物の中は熱帯鳥類館と猛獣館をあわせたようなもので、中央をガラス張り



ソマリノロバ

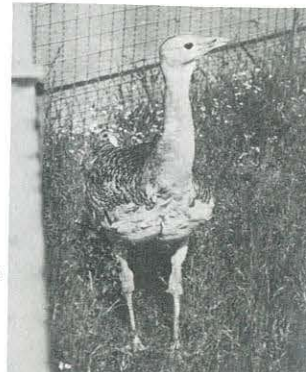
温室風にして様々な熱帯鳥類とオオコウモリが放飼されており、周囲はトラ、ヒョウ、ライオンなどの



オカビと一緒に

猛獣類が収容されており、ベンガルトラ、シベリアトラの室内無柵放飼場をも備えた立派な施設です。ここのライオンは全てインドライオンとのことで、6年間で40頭も繁殖したそうですが、アフリカライオンに比べてがみが貧弱なため、入園者にはあまり人気がないと嘆いていました。

車で園内をまわったため、小動物類や鳥類はあまり見学できなかったのですが、この動物園は稀少な鳥類も数多く飼育しており、その中でツルの仲間属するノガンの実物を初めて見れたことは幸いでした。



ノガン

§東ベルリン → 西ベルリン

7時前に園内見学を終え、Seidel 獣医の車で彼の家に向かいました。少し都心を離れた場所に労働者用の高層住宅が並んでおり、彼もそこに住んでいるとのこと、彼の奥さん、お嬢さんにもお会いし歓迎していただきました。日本と東ドイツのことなどいろいろ話し合いましたが、共産圏のこととてなかなか国外への旅行はままならないとのことでした。この後、検問所で渡された紙片を見せて何が書いてあるのかとねると、外貨の持込みを記入すること、あわてて所持金のドル、円、マルクを計算しましたが、計算があわないと検問所で取り調べられるとおどかされ冷汗をかきました。8時に市内のドイツ料理レストランへ向かい夕食をごちそうして頂きましたが、旅先での親切を身を感じながら楽しいひと時を過ごしました。夜中の12時までに検問所を通過して西ベルリンへ帰らねばならないため、10時頃検問所まで送ってくださった上、私が無事に検問所を通過できるかどうか、夫妻で心配そうに私を見送ってくださったのが印象的でした。(つづく)

(飼育課：宮下 実)

☆インドガンの繁殖

6月2日インゾガンが産卵しましたが、自然抱卵は無理なため、ふ卵器に入れてあたためていたところ、7月3日1羽のヒナがかえりました。



(ふ卵日数は28日)最初はどのヒナか分からないような綿毛でしたが

3ヶ月経った現在では後頭部の黒い縞もようも少し判別できるようになってきています。なおインドガンの人工ふ化は日本の動物園では初めてのことと思われま

☆沖縄にシュバシコウのプレゼント

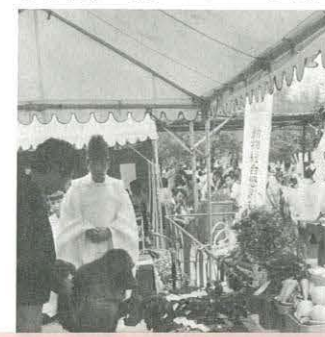
沖縄こどもの国に鳥類放養舎が完成したお祝に、6月に第一陣としてカナダガンやアオサギなど7種17羽の鳥類をプレゼントしましたが、第二陣としてシュバシコウ4羽を贈りました。沖縄の澄みきった空のもと、新しい放養舎内を飛ぶシュバシコウは入

在大型水槽で飼育していますが、飼育の大変むずかしいヘビです。



☆動物愛護週間

9月20日～26日の動物愛護週間にちなむ、いろいろな催物が開かれました。期間中は児童動物画並び



に動物標語入選作品展や動物健康無料相談所の開設、動物愛護に関するビデオ放映等が行われました。9月23日には、過去1年間に死亡した動物の霊を慰める動物総合感謝祭が行われ、参列者が次々と

夢が広がるショッピング...
近鉄がお届けします



上本町店 (06) 779-1231



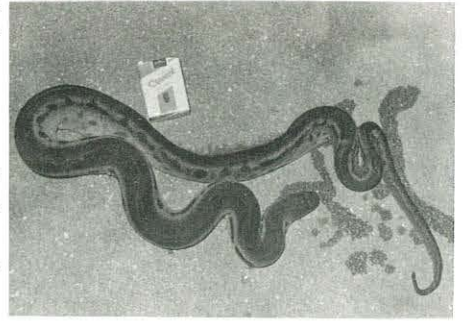
アベノ店 (06) 624-1111



奈良店 (0742) 33-1111

近鉄百貨店

在大型水槽で飼育していますが、飼育の大変むずかしいヘビです。



☆動物愛護週間

9月20日～26日の動物愛護週間にちなむ、いろいろな催物が開かれました。期間中は児童動物画並び



に動物標語入選作品展や動物健康無料相談所の開設、動物愛護に関するビデオ放映等が行われました。

9月23日には、過去1年間に死亡した動物の霊を慰める動物総合感謝祭が行われ、参列者が次々と祭壇に玉串をささげ、真打ちに動物園

代表として、オランウータンのサツキちゃん(メス、7才)が登場、神妙な表情で玉串をさし出しました。

☆秋の行事のお知らせ

10月8日～11月15日の間、北園展示館で「動物折紙展」を開催します。これは折紙で動物の顔や形を表現し、社会教育の一環として、子供と動物のふれあいを深めるものです。

10月15日～11月12日まで「秋の動物園まつり」が開かれます。期間中の日曜・祝日にはいろいろな催物を用意しています。又、この期間中、ゴミのないきれいな動物園へ協力を求めるクリーンキャンペーンを行う予定です。

休園日のお知らせ

動物園の休園日は毎月第3月曜日です。来年1月までの休園日は下記の通りです。
10月16日、11月20日、12月18日、12月29日から1月1日、(年末年始)、1月16日(火)
開園時間は9時半～4時半で、4時に切符売止めになります。

☆インドガンの繁殖

6月2日インゾガンが産卵しましたが、自然抱卵は無理なため、ふ卵器に入れてあたためていたところ、7月3日1羽のヒナがかえりました。



(ふ卵日数は28日)最初はどのヒナか分からないような綿毛でしたが

3ヶ月経った現在では後頭部の黒い縞もようも少し判別できるようになってきています。なおインドガンの人工ふ化は日本の動物園では初めてのことと思われる。

☆沖縄にシュバシコウのプレゼント

沖縄こどもの国に鳥類放養舎が完成したお祝いに、6月に第一陣としてカナダガンやアオサギなど7種17羽の鳥類をプレゼントしましたが、第二陣としてシュバシコウ4羽を贈りました。沖縄の澄みきった空のもと、新しい放養舎内を飛ぶシュバシコウは入園者の方々にきっと楽しんでいただけることでしょう。

☆ボイラーの火入れ式

10月1日から一部動物舎の暖房を開始しますが、それに先立ち9月30日にボイラーの火入れ式を行い



来年5月末までの安全操業を祈願しました。当日は動物代表のオランウータンのサツキちゃんが点火棒で火をつ

け、試運転を開始した後、10月1日からハ虫類舎への暖房を始めました。これから寒くなるにつれてカバ舎、類人猿舎などへ順次暖房する予定です。

☆ヘビの寄贈

9月の末に相ついで珍しいヘビ類の寄贈がありました。ラッセルスナボア2頭、ヤスリヘビ2頭、ミズヘビの一種が2頭、その他シュウダヤジムグリも寄贈を受けました。この中でヤスリヘビは水生のヘビで、名の通りウロコがヤスリのような感じで、現

ました。彼のフィアットで園内の観覧路を進むわけですが、日曜のため入園者が多く、その中を車で行くのは多少申し訳ない思いがしました。この動物園は元はドイツの皇帝の庭園だったそうで、それでこんなに大きな樹木があり、あちこちに動物の像が建っているわけです。飼育動物は哺乳類、鳥類だけでも600種類と多く収容していますが飼育係員は36人と非常に少なく、内7割は女性キーパーとのことです。又、東ドイツではハ虫類に興味を持つ人が少ないようで、



猛然と突進して来るターキン

この動物園もハ虫類の展示にはあまり熱心ではありませんでした。予算が少なく当園は貧乏だとSeidel氏が言う通り、有蹄獣の柵は全て木柵で、インドゾウやクロサイの動物舎にしてもお世辞にもきれいとは言いがたく、暗く湿っぽい感じで、写真を撮ろうとすると、こういう汚い場所は撮らないでくれとめられました。ここは有蹄類は数多く珍しいものを集めてお

温室風にして様々な熱帯鳥類とオオコウモリが放飼されており、周囲はトラ、ヒョウ、ライオンなどの



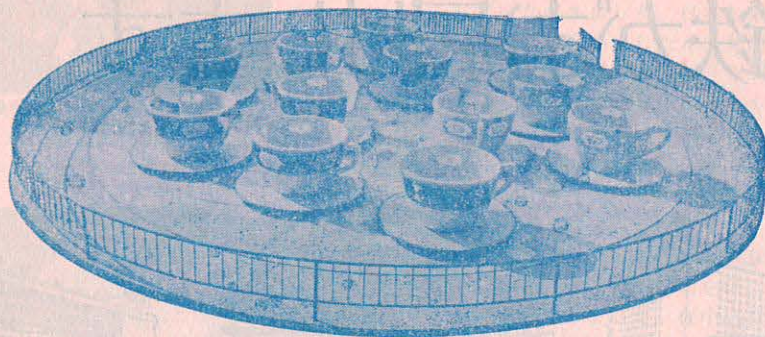
オカビと一緒に

猛獣類が収容されており、ベンガルトラ、シベリアトラの室内無柵放飼場をも備えた立派な施設です。ここのライオンは全てインドライオンとのことで、6年間で40頭も繁殖したそうですが、アフリカライオンに比べてがみが貧弱なため、入園者にはあまり人気がないと嘆いていました。



車で園内をまわったため、小動物類や鳥類はあまり見学できなかったのですが、

遊園施設委託経営・製作・販売



久竹娛樂株式会社

本社工場 大阪市西区北堀江御池通2-100
電話 大阪(06)541-3112・3938 番

三
\$ア
アルに見物
物屋園
園
見
下
ま
分
系
イン
ほと
つと
\$西
こ
飼
も1
でも
倍
は
して
門
の
氏
が
ま
し
い
か
用
る
稀
少
の
見
健
診
シ
る
う
ス
類
一
よ
ひ
造
海
シ
ア
オ
ど
れ
の
あ
ゾ
の
が

なきごえ 昭和53年10月15日発行(毎月1回15日発行)

編集/大阪市天王寺動物園

発行人/大阪市天王寺動物園協会 和田辰巳

印刷所/株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共)

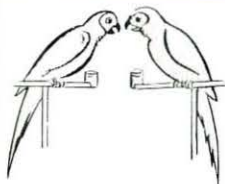
第14巻第10号(通巻158号)

〒543 大阪市天王寺区玉水町2

電話 大阪 (06)771-0201

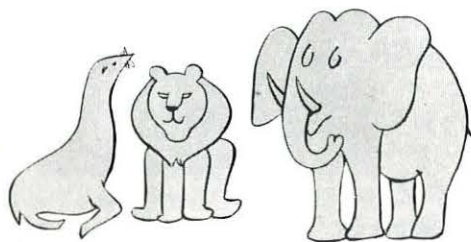
振替口座 大阪 37823

1年継続(12部)1,100円(送料共)



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達



- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円

有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地 電話(078)221-8195・221-1517

飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話(078)241-3494



自然の
おいしさ

全糖

- 合成甘味料・合成保存料・合成糊料・合成着色料はっさい含まれていません。



雪印ヨーグル

各130c.c.=90円

パイン・オレンジ・ストロベリー・フルーツカクテル

編集委員

板野 健一・林 邦彦・大野 尊信・米田 敏光・樽本 勲・中川 道朗・高橋 真三・農本 武志
石島 宏胤・野口 秀高・宮下 実・橋本 一郎・長瀬健二郎・三浦 正明・葭谷 文彦・仲谷 登